

* 国語国字問題Q&A (1) * * * * *

なぜ「ひらがな」でなく、「カタカナ」なのか

ユズリハ サツキ

Q カナモジカイは、なぜ「ひらがな」専用でなく、「カタカナ」専用をとなえているのですか？

A ヒラガナは、漢字の草書から発達しました。そして、フデをつかって、タテにならべやすいように、また、ソレゾレの文字がツリアイのとれるようにみがきあげられてきました。したがって、ヒラガナは1文字1文字の独立性がよいいため、漢字とイッショにつかうには問題ありませんが、ヒラガナばかりでヨコにならべたバアイ、よみにくくなります。

カタカナは、漢字の一部分からできたものです。シタにしめしたように、〈イ〉は〈伊〉の偏、〈ヌ〉は〈奴〉のツクリです。このように1文字1文字が単純な線でくみだてられています。したがって、ヨコに2文字3文字とつづけたバアイ、それらがくみあわさって語としてまとまるチカラが、ヒラガナに比べてすぐれています。

以 → 〈以の草書〉 → い

奴 → 〈奴の草書〉 → ぬ



伊 → イ

奴 → ヌ



そのカタカナの特性をいかすための書体がカナモジ研究家によって設計されてきました。これらは、カタセン(肩線) (「ア、カ、サ」などのウエのヨコ線)をそろえ、ソレゾレの個性をいかしてデザインされており、これまでの明朝体などのカタカナに比べて、はるかに語形が作りやすくなっています。この文章でつかっているカタカナは、それらのうちのヒトツで、「アラタ」と

いう書体です。（【比較】明朝体:「アサヒ」 アラタ:「アサヒ」）

ここでは、この「アラタ」をつかってヒラガナとカタカナの文章の比較を試みましょう。（文例は「世界人権宣言」第1条）

すべてのにんげんは、うまれながらにしてじゅうであり、かつ、そんげんとけんりについてびょうどうである。にんげんはりせいとりょうしんとをさづけられており、たがいにどうほうのせいしんをもってこうどうしなければならない。

スベテノニンゲンハ、ウマレナガラニシテジユウデアリ、カツ、ソングントケンリトニツイテビョウドウデアル。ニンゲンハリセイトリョウシントヲサズケラレテオリ、タガイニドウホウノセイシンヲモッテコウドウシナケレバナライ。

よみくらべて、ヒラガナ文のホウがよみやすいとカンじたヒトもすくなくないかもしれません。それは、ナレの問題です。文章をよむときに1字ずつよむのと語形でヒトメでわかるのとでは能率がまったくちがいます。英語などでも単語は、1字ずつよんでいるのではなく、語形で理解しているのです。カタカナの文章になれば、カタカナの語形をつくるチカラによるヨミヤスサを実感されることでしょう。

カナモジカイの伝統的な理論にしたがえば、ウエのようにオコタエすることになります。が、現実には、ワタシたちは、ヒラガナ専用論を排除してはいません。漢字の不便や害をなくすため、カタカナをよしとするヒトも、ヒラガナをよしとするヒトも、ともにテをたずさえて運動しています。

※ この文章は、『カナモジハンドブック』（「カナモジケンキューグループ」発行（絶版））におさめられた「カタカナ:ヒラガナ:ローマ字ノ比較」をもとにし、ワタクシのカンガエをかきくわえたものです。